



平成30年度神奈川県溶接技術コンクール入賞選手

## 平成30年度(第61回) 神奈川県溶接技術コンクール 表彰式開催

平成30年度(第61回)神奈川県溶接技術コンクール(被覆アーク溶接の部及び炭酸ガスアーク溶接の部)は、神奈川県及び(一社)神奈川県溶接協会共催により去る2月2日(金)開催されましたが、その表彰式が5月25日(金)に(一財)日本溶接技術センターに於いて挙行されました。今年度は、参加者36名(被覆アーク溶接9名・炭酸ガスアーク溶接27名)のうち、優秀賞6名(760点以上/満点800点)優良賞20名(720点以上)が入賞し、神奈川県のレベルの高さをあらためて、証明する形となりました。(入賞者氏名・企業名につきましては、前号にて発表、掲載)

主催者である神奈川県を代表して産業労働局産業部産業振興課長山崎博様より入賞者へ温かいお祝いの言葉と、さらなる技術の向上を期待する旨のお言葉をいただき、県知事賞の授与が行われました。審査委員長の神奈川県立産業技術総合研究所の岸本幸宏理事より今年度の審査内容についての報告と来年度に向けての注意点などが説明されました。東部地区検定委員会からは福永和義副委員長にご出席いただき、昨年度の全国競技会での結果にも触れ、今年度もますますの活躍を、との言葉を頂戴し検定委員長賞を授与いただきました。

その後の懇親会は、(一社)神奈川県溶接協会 志賀啓介会長はじめ、入賞選手・会社代表・来賓・協会役員・選手付き添い等約80名の出席を得て行われました。また、今年度は、定時総会と弊協会の主にOBで構成される溶協交友会の総会も同日に行われたため、会員会社関係者、諸先輩方の参加もあり、企業の枠や年齢の壁を超え、お互いにこれからの溶接界をいかに発展させていくべきかなど、意見の交換がみられ、活気あふれる盛大な表彰式となりました。最後にここ数年恒例となっている、神奈川県代表選手による全国大会へ向けての決意が披露されました。昨年度に続き、TEAM KANAGAWAの力を全国でも発揮してもらいたいと切に願うところです。

尚、今年度の第64回全国溶接技術競技会は、10月21日(日)山口県山口市の山口職業能力開発促進センター(ポリテクセンター山口)で開催されます。各部門、それぞれ上位2名の方々が、神奈川県代表として出場します。



全国競技会へ出場する4選手

左から 馬原さん 喜屋武さん 西さん 東迎さん



挨拶をされる山崎課長

### 被覆アーク溶接の部

団体賞 東芝エネギ・システムズ(株)京浜事業所 / 個人賞 優勝 馬原 涼太 東芝エネギ・システムズ(株)京浜事業所  
2位 喜屋武 秀人 (株)IHI横浜工場

### 炭酸ガスアーク溶接の部

団体賞 住友重機械マシニング・エンジニアリング(株) / 個人賞 優勝 東迎 晋太郎 住友重機械マシニング・エンジニアリング(株)  
2位 西 翔馬 (株)IHI横浜工場

上記の入賞者には、他に(一社)神奈川県溶接協会会長賞、(一社)日本溶接協会東部地区溶接技術検定委員長賞、また、優勝者には他に産報出版(株)賞が、贈られました。

## 平成29年度（第63回）全国溶接技術競技会 表彰式開催

去る6月13日（水）東京お茶の水にあるホテル東京ガーデンパレスにおいて、昨年度（株）IHI横浜事業所で開催された全国溶接技術競技会の表彰式が挙行されました。神奈川県代表選手は、被覆アーク溶接の部において最優秀賞を受賞した根崎弘崇さん（株）IHI）をはじめ、炭酸ガスアーク溶接の部で特別優秀賞を受賞した岩崎拳也さん（株）IHI）、優秀賞を受賞した喜屋武秀人さん（株）IHI）、鈴木耕久さん（東芝エネルギーシステムズ（株）浜川崎工場）、優良賞を受賞した中神貴紘さん（東芝エネルギーシステムズ（株）京浜事業所）が出席しました。受賞者42名他、関係者多数が列席する中、競技会長である（一社）日本溶接協会栗飯原会長のご挨拶の後、最優秀賞者へ経済産業大臣賞として表彰状と副賞の銀のプレートが経済産業省国際標準課長から授与されました。その後、優勝旗が栗飯原会長から手渡され、10年ぶりにここ神奈川県へ優勝旗が帰ってきました。その他各賞の受賞者へ（一社）日本溶接協会賞、産報出版（株）賞の表彰状と副賞が授与されました。競技成績講評は、審査を担当した東部地区溶接技術検定委員会中込忠男委員長より行われたあと、今回の競技会場を快くご提供くださった（株）IHI横浜事業所片平不二雄所長、また、東部地区溶接協会連絡会の代表として群馬県溶接協会の小池敏郎会長、（一社）神奈川県溶接協会を代表して尾茂田剛副会長へ感謝状が（一社）日本溶接協会より贈られました。



被覆アーク溶接の部



優勝旗を受け取る根崎さん



炭酸ガスアーク溶接の部（女性2名が入賞！）

## 黒岩祐治神奈川県知事へ全国溶接技術競技会優勝報告

2018年8月28日午後、湿度が高く快晴ではないが、前日の猛暑から少し気温が下がった感じのする天気の中、昨年10月に（株）IHI横浜事業所で行われた第63回全国溶接技術競技会の被覆アーク溶接の部で、見事優勝をした（株）IHI横浜工場の根崎弘崇君が、神奈川県知事に優勝報告を行った。神奈川県庁の1階ロビーには（株）IHI横浜工場から根崎君の上司の浅野隆職長、（株）IHI技術訓練所の責任者で（一社）神奈川県溶接協会副会長を務める平野隆部長、（一社）神奈川県溶接協会の志賀啓会会長が集合している。当日の午前中は前日夜からの不安定な天気が続いていたが、午後になると太陽が顔を出し、すがすがしい日差しが広がっていた。県知事報告ということで、優勝旗、優勝カップ、表彰状を持参し、クールビズではなく、ジャケット、ネクタイ着用と正装しているため、額には汗が流れている。「たまには正装も良いよね」と言いながら、県知事報告という初めての体験の緊張を雑談でほぐそうとしている。ところで、神奈川県庁（本庁）は古い建物のように、昔の映画を見ているような雰囲気である。まさにタイムスリップしているような。。。そうこうしていると、約束の時間がきて県の担当者に会議室を案内してもらった。建物の感じとは異なり、その部屋の豪華さに目が行く。その部屋で県の担当者から県知事報告の進め方を説明され、優勝旗等を配置すると、次第に緊張が高まっていく。県の担当者とうまく話そうか？という話をしていると、根崎君は「握手したい」と言い出した。過去、どのような写真を県知事に撮っているかわからないが、根崎君は優勝するだけあって、自分の主張をしっかりと持っている。あとは県知事がどう応えてくれるかだ。期待と不安と緊張が高まる中、黒岩県知事が颯爽と入場してきた。もちろん、黒岩県知事を間近で見るとは初めてだ。さすがに7年以上も県知事をしているだけあって、自然とオーラが滲み出ている。神奈川県庁の山崎課長から、昨年10月の（株）IHI横浜事業所での全国溶接技術競技会で神奈川県勢として10年振りに優勝したこと、優勝した根崎君のプロフィールが紹介された。さて、次は黒岩県知事が根崎君への声掛けの予定が一瞬の沈黙があった。黒岩県知事が気付き、根崎君に説明を促した。急な振り方だったが、根崎君は何事もなかったかのように、自分のビード見本を用いて、溶接がどのような競技なのかを黒岩県知事に説明した後、昨年10月の全国競技会の開会式の様子、競技会本番の様子、昨年は初めて溶接中の様子を一般見学したことを写真を用いて説明した。もちろん、その中には自分の写真もあり、ゼッケン44番を指さし、「これが自分ですけど。。。と自己主張は忘れない。黒岩県知事は常に笑顔で根崎君の話聞いていた。黒岩県知事は「知事になって7年以上上つた。時々、技能五輪の報告はあるが、溶接の優勝報告は初めて。素晴らしい。」と絶賛していた。県知事が溶接のこの根崎君の現在の仕事を質問するという良い雰囲気の中、短い面会時間はあっという間に過ぎていった。最後の写真撮影で、根崎君が希望通りに黒岩県知事と握手している写真をゲットした後、根崎君が優勝カップ、黒岩県知事が表彰状持って写真撮影をした。短時間ではあるが二人は打ち解け、共同作業を行ったことに一同、感動を覚えた。最後に黒岩県知事、根崎君、志賀会長、平野部長、浅野職長で最後の記念撮影を行った後、黒岩県知事は根崎君を初め関係者と握手し、その場を退出していった。短い時間ではあったが、濃密で楽しい時間であった。県知事にはもっと喜んでほしい。今年の全国溶接技術競技会も優勝目指して頑張るぞ！と思わずにはいられなかった。



## 平成31年度（第62回）神奈川県溶接技術コンクール 開催のお知らせ

平成31年2月1日（金）（一財）日本溶接技術センターにおいて、第62回神奈川県溶接技術コンクールが下記の通り開催されます。平成31年度の全国溶接技術コンクールは、沖縄県で開催される予定です。日頃の腕前を試す良い機会となるかと思います。多くの方々のご応募をお待ちいたしております。

- ・主催 神奈川県・一般社団法人神奈川県溶接協会
- ・開催期日 平成31年2月1日（金）（申込締切日 平成30年12月21日）
- ・会場 （一財）日本溶接技術センター
- ・参加資格 県内の溶接技術者で、各事業所から推薦された者 又は 県内在住又は在勤の個人
- ・競技課題 全国溶接技術コンクール課題と同様  
（競技実施要領ご希望の方は（一社）神奈川県溶接協会までお問い合わせください）

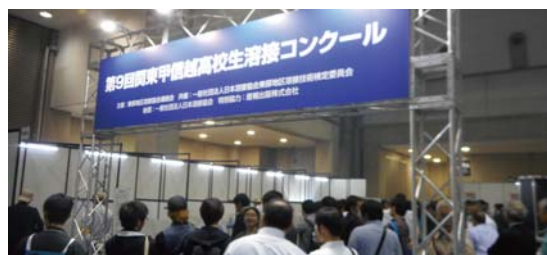


## 平成30年度（第9回）関東甲信越高校生溶接コンクール 結果

平成30年4月28日（土）、第9回関東甲信越高校生溶接コンクールが行われました。毎年藤沢市の神鋼溶接サービス㈱を会場として行われるこのコンクールですが、今年は『2018国際ウエルディングショー』の最終日に東京ビッグサイト内の特設会場において、若いパワーがぶつかる白熱したコンクールとなりました。2年ごとに大阪と東京において交互に開催されるウエルディングショー。4月25日（水）から28日（土）4日間で延べ10万人もの来場者を迎える会場で、普段とは違う大勢の観客や家族、友人など応援の方からの熱い視線を背に緊張感いっぱい溶接に取り組む姿は、見ている者の心を打つものがありました。審査項目として、溶接作業における実技審査及び指定された棒継ぎ・清掃状況等に加え、最終ビードの外観評価および超音波深傷試験（UT）が実施され、それらの項目の総合評価得点により最終順位が決定されました。表彰式も同日、同会場内で開催されました。

優勝は、千葉県代表東総工業高校の須合勇斗選手でした。神奈川県代表の水腰英晴選手（神奈川県立神奈川工業高校）は、第19位、同じく代表の菅野真利選手（同校）は第13位となりました。県代表選手の2名は、短い春休みの一週間（一財）日本溶接技術センターへ練習に通い、力をつけコンクールに臨みました。今後の活躍も大いに期待するところです。年を重ねるごとに、出場する高校生の技量も上がり、審査委員も順位をつけるのにも苦慮するところとなり、来年からは課題をN-2Fへと変更することになりました。さらなる研鑽を積み、溶接界の未来を切り開くステップとしてもらいたいと考えます。

なお、審査を担当する東部地区溶接技術検定委員会は、今回評価が行われた競技材を対象として、コンクール終了後にX線透過試験（RT）、磁粉深傷試験（MT）及び曲げ試験による評価手法の検証を行い、選手各個人に結果報告するなど、関東甲信越高校生溶接コンクールへの多大なご協力をいただいています。そして来年は、このコンクールも10回目を迎えます。



## 高校生による溶接研修会及び溶接コンクールについて

◎平成30年度（第10回）神奈川県高校生溶接コンクールは、下記要領で開催します。

- ・主 催：（一社）神奈川県溶接協会 ・後 援：神奈川県工業高等学校校長会 ・協力：（一財）日本溶接技術センター
  - ・期 日：平成30年11月23日（金） ・会 場：（一財）日本溶接技術センター
  - ・競技課題：溶接評価試験のN-2F相当（板厚9mm裏当てなし 下向き）
  - ・判定方法：外観判定・X線試験判定 ・参 加 者：神奈川県内の工業高等学校生徒 参加者数：未定
- このコンクールで上位2名の方を、平成31年度（第10回）関東甲信越高校生コンクールに神奈川県代表として推薦します。  
期日：平成31年4月27日（土） 会場：神鋼溶接サービス㈱研修センター（予定）

◎神奈川県工業高等学校教師・生徒研修について

（一社）神奈川県溶接協会と（一財）日本溶接技術センターは共同で、平成30年度神奈川県教科研究会工業部会が主催する神奈川県教科研究会工業部会 機械専門部 夏季研修会「アーク溶接技能講習」を7月31～8月2日（3日間）開催しました。これは高等学校教師・生徒に対する溶接技能の研修会です。（一社）神奈川県溶接協会としては今年で10回目になります。9校から先生、生徒40名が参加しました。

今年度から実習内容が、溶接技能評価試験のN-2F（板厚9mm裏当てなし下向き）へ変更となりました。これは、年ごとに高校生の技量が上がり、出場選手間の得点差もわずかとなり、コンクールでの順位決定が大変難しくなってきたことに伴い、11月に行われる神奈川県高校生溶接コンクール、また来年4月に開催される関東甲信越高校生溶接コンクールの課題が、N-2F相当へ変更となったことによるものです。今年も神奈川県職業能力開発協会のご協力の元、溶接技術マイスターの佐藤丹次先生をお迎えして行われ、講師から溶接技術の基本、勘所についてなどレクチャーを受けました。慣れない裏波溶接に参加者は四苦八苦する中、3日目にしてきれいな裏波を出す生徒もいるなど、特に暑さが厳しかった今年の夏、先生も生徒も皆さん大変熱心に取り組んでいたのが印象的でした。

尚、8月3日には（一財）日本溶接技術センターで『非破壊検査セミナー』を開催しました。前日の講習で溶接した参加者各自の作品を蛍光探傷試験及びX線透過試験したものを専門家の解説を受けながら溶接部の観察をしました。普段見ることのできない溶接表面及び内部の状況に参加者は目を輝かせて見入っていました。



夏休み研修会参加者の教師・生徒の皆さん

## 『溶協交友会』レクリエーション

去る6月30日(土)、梅雨の晴れ間とはよく言いますが。。。6月とは思えない快晴のお天気に恵まれたこの日、『溶協交友会』の20名の参加者と共に、神奈川県南東部三浦半島南端沖に浮かぶ城ヶ島へ行ってきました。京急三崎口に集合したあと、バスに揺られ城ヶ島へ。『溶協交友会』の相原正公会長はじめ、レクリエーション担当の原田順雄さん、北野嘉男さんの号令の下、まずは城ヶ島灯台の前で、記念撮影。ここ城ヶ島は、江戸時代よりのろし台が設置され、灯台としての役割を果たしていた場所です。幕末に鎖国が解かれると、浦賀水道の出入路に近いことから西洋式灯台の建設地に選ばれ、明治3年に初点灯。その後関東地震で倒壊するが再建され、白色円筒形の現在の姿となり、現在は2代目です。

おのの海岸沿いを軽く散歩をし爽やかな海風に吹かれた後、城ヶ島京急ホテル広間より雲間から顔をだした素晴らしい富士の姿を眺め、一風呂浴びたあとはお待ちかねのお食事の時間となり、旧交をあたため、話も弾みお酒も進み楽しい時間を過ごすことができました。その後有志は、カラオケルームへと移動して自慢のどを披露し、瞬間に解散

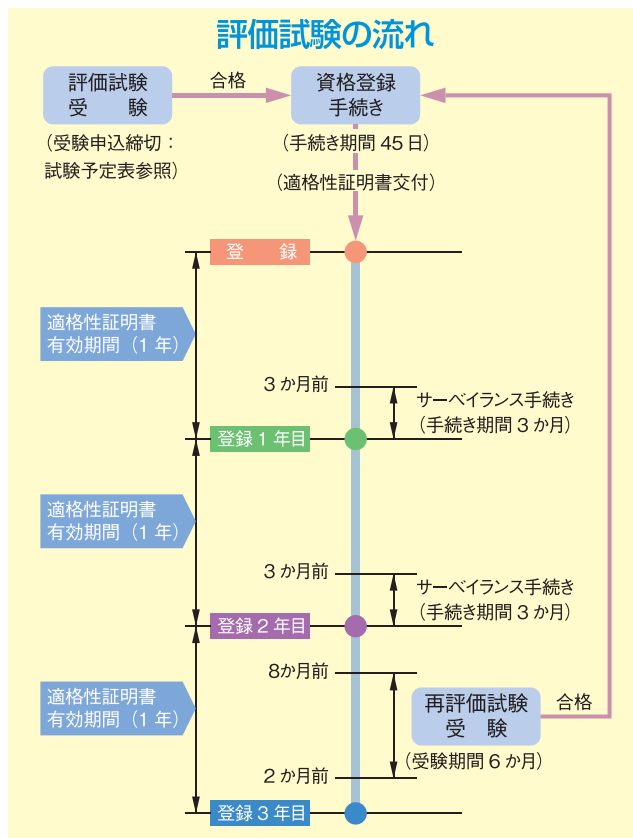


の時間となりました。『溶協交友会』は、平成24年に(一社)神奈川県溶接協会の理事、講師等をおつとめいただいた方々の交友団体です。昨年(株)IHI横浜事業所で行われた全国溶接技術競技会では、ボランティアとしてその運営に多大なるご協力をいただき、その経験と知識は、弊協会にとって大きな財産となっています。

## 講演会開催のお知らせ

- ・講演内容：ステンレス鋼溶接について
  - ・開催日時：平成30年11月20日(火) 9:30~17:00
  - ・開催場所：(一財)日本溶接技術センター 5階講堂
- 詳細につきましては、(一社)神奈川県溶接協会へお問合せ下さい。

## 評価試験情報



## 手溶接 実技試験要領

	A-2F	A-2V	A-2H
仮付			
溶接棒	イルミナイト系φ4mm又は低水素系φ4mm		
電流その他	1層 180~190A (ストリングビード) 2層 170~180A (ワイピングビード) 3層 170~180A (ワイピングビード) 4層 160~170A (低水素系では4層仕上) 5層 160~170A (低水素系では4層仕上)	1層 125~135A (上進ストリングビード又はスモールワイピングビード) 2層 120~130A (上進ワイピングビード) 3層 115~125A (上進ワイピングビード)	1層 160~170A (ストリングビード) 2層 (2パス) 155~165A (ワイピングビード) 3層 (4パス) 120~130A (ストリングビード)
特に注意すること	○1層目は特にアークを短くするために、溶接棒先端カップを開先底面につけ、スラグを十分押えながら、ゆっくり進む。 ○最終層の前の層は母材表面から1mm程度の深さに調整するとよい。	○1層目は溶接速度に注意して十分溶込ませる。 ○2層目は1層目のビード両止端部でアークを止めるようにし十分溶込させると同時にビードをできるだけ平坦にする。 ○最終層はアンダーカットに注意。	2層目のワイピングに注意しビード高さをそろえる。 7パス目はアンダーカット防止のため、スラグが流れないように注意。

- 更新試験の受験期間が次のようになっています。  
更新試験の受験期間は技術資格の有効期限が切れる8ヶ月前から2ヶ月前までに試験を受けなければなりません。
- 更新試験に合格した場合は資格の登録日が現在資格の有効期限に合わせて登録されるようになっています。
- 上記期間外に受験する場合は有効期限内であっても、新規試験(学科試験免除)で基本級も受験しなければなりませんのでご注意ください。
- 更新試験と同時に新規種目も受験出来ますが、この場合は新規試験(学科試験免除)扱いとなり②の扱いは受けられません。  
②の扱いを受けようとする場合は新規試験及び更新試験それぞれ試験申込書を別々にしてください。
- 登録年月日と有効期限が同じで証明書番号が異なる別々の資格を一枚の試験申込書で申し込んで受験する場合は現在のところ更新試験の扱いにはなりません。新規受験になってしまいますのでご注意ください。  
更新試験の扱いを受ける場合は、申込書を別々にして下さい。
- 試験結果の発表は、毎月の15日以前の試験は翌月末の発表です。